

事例から学ぶ

移動時の足元確認の重要性

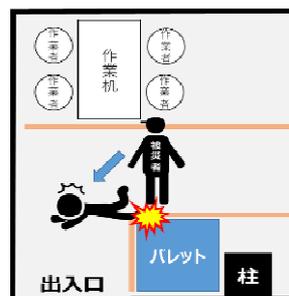
物につまずいたり段差から足を踏み外してケガを負うと、骨折などの重症を負う可能性があります。今回紹介する事例は、足元の確認が不十分だったことで実際に重症を負った事例を紹介します。危険に気づかないままケガをしないよう、足元を確認する意識を高めていきましょう。

● 足元の危険に気づかず、重症を負った事例

事例1：パレット（※）の角につまずき、左ひざを骨折

発生状況 ※パレット：製品を積むための台

出入口へ向かって振り向いて移動しようとした際、反対側にあるパレットの角につまずいて転倒、膝蓋骨（しつがいこつ：ひざの動きを滑らかにする部分）を骨折した。パレットは通路に面した直角コーナーにあり、パレットの高さ約15cm分が段差のようになっていた。



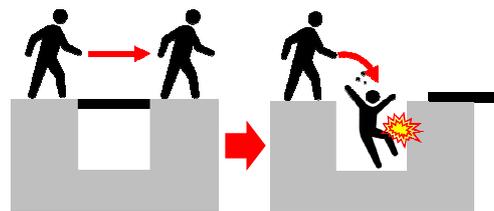
ポイント

- ・振り向いて移動しようとした際、足元に注意を払っていなかった。
- ・パレットは通路に面した直角コーナーにあり、高さ約15cmで視界に入りにくい状況だった。

事例2：フタが開いた溝へ足を踏み外し、左足すねを損傷

発生状況

見回り点検中に点検表を見ながら歩いていた際、溝のフタが開いていることに気づかず、両足を踏み外し溝の角に左足のすねを強打、挫創（ざそう：強打による損傷で、皮膚が切れて傷口が開き、出血を伴う状態）した。普段はフタが閉まっている状態だったが、別の作業者がフタを閉め忘れていた。



ポイント

- ・溝のフタは普段閉められていたが、発生当時はフタが開いていた。
- ・点検表を見ながら歩いていたこともあり、足元の溝に気づけなかった。

● 移動する前に足元の確認を

他にも別の作業者が置いた台車につまずいてケガをしたり、ゆるい傾斜がある滑りやすい場所と知りながらも焦りから注意力が低下して足を滑らせてケガをした事例があります。足元の物に気づいたり焦りによる不安定な気持ちを落ち着かせるためにも、移動する前に足元の確認を意識することは、足元に潜む危険を未然に防ぐために大切なことです。



別の作業者が置いた
台車

◆ 移動する前に足元を確認する目的 ◆

1. 足元に潜む危険を未然に防ぐ
2. 焦る気持ちを落ち着かせる

ゆるい傾斜がある
滑りやすい場所

